少女まんが館蔵書の整理・メタデータ化プロジェクト

有限会社さるすべり

●概要／課題

少女まんが館は「少女まんが世界」の永久保存を目指し、有志15名によって 1997年に創設された少女マンガ専門の私設図書博物館である。開架式のため、手軽に見て触ることができる。2002 年から週一回の一般公開を始めた。

収蔵品は少女マンガファンなどからの寄贈により、明治時代から主に 2000年までに発行された少女雑誌や少女マンガ雑誌とそのふろく類（別冊ふろくや立体ふろく）、コミックスや単行本、イラスト集、貸本、関連書籍やグッズ類、直筆サイン本、原画など多岐にわたり、1970～80年代の少女マンガ雑誌の一部作品切り抜きファイルなども、多数寄贈されている。

また、近年、未整理の中に他の関連他施設にない唯一の存在が明らかになり（萩尾望都デビュー作品掲載の雑誌『なかよし増刊』、明治時代の少女雑誌など）、収蔵品の抜本的整理とメタデータ化の必要を痛感し、個人レベルで運営してきた少女まんが館をより利用しやすくするとともに、収蔵品をメタデータ化するために本事業を実施した。

昨年度は採択1年目として、本館（延べ床面積24坪）の本棚100本、未整理の段ボール箱300個、プラケース90個あまりの収蔵品（冊子体）の総量（総冊数）調査、一部冊子体のメタデータ化を実施した。

今期は前期に残されたふろくグッズ類の入った未整理箱40個の総点数調査に着手、昨年度に引き続き、雑誌2000冊以上をメタデータ化した。

少年マンガや青年マンガにあまりない「雑誌ふろく」の存在は「少女まんが世界」を特徴づける大きな要因である。実際、今期の課題であるふろくグッズ類の総点数調査に着手したところ、これまで死蔵していたふろくグッズ類を活用する道筋が見えてきた。そのため、昨年度まで、本施設は「私設図書館」としていたが、今期からは「私設図書博物館」に変更した。

一方、収容力の限界に達した解決策として、熱海分室を新たに設置。昨年4月、雑誌重複分を熱海分室へ移動した（段ボール箱60個、木箱74個）。

●体制

アドバイザー：池川佳宏（熊本大学）
進行管理：中野純、大井夏代（有限会社さるすべり）
蔵書整理・データ入力：上記2名に加えてアルバイト4名
データベース構築：田中二郎（ねりまど～るずインターネット）

●手法

（ふろくグッズ類総点数調査）

１.段ボール箱40個をすべて開けて、中を検分。『なかよし』『りぼん』『ちゃお』『花とゆめ』など雑誌別、出版社別、不明品、分類保留など、大まかに分けた。立体ふろくとして組み立てられたものは、可能であれば解体して収納しやすくし、糊付けされたものなどはそのまま保存とした。

２.昭和時代（～1989 年 1 月 7 日）までに発行されたものは、基本的に 2 点保存。

３.昭和時代発行までのものの 3 点目以降は、少女まんが館 TAKI1735 へ寄贈するため、送付用段ボール箱に収納。

４.平成時代（1989 年 1 月 8 日～2000 年 12 月 31 日）は 1 点保存。2 点目以降は少女まんが館 TAKI1735 へ寄贈するため、送付用段ボール箱に収納。2001 年以降発行のものも、少女まんが館 TAKI1735 へ寄贈するため、送付用段ボール箱に収納(以上、冊子体と同じルール)。少女まんが館TAKI1735行きのふろくグッズ類は段ボール4箱、782点となった。

５.「1」で大まかに分けた本館保存用を、それぞれの雑誌別、出版社別に、わかる範囲でさらに年月別に分類して角２封筒に入れ、100サイズの段ボール箱13個へ収納 。不明品・分類保留は段ボール箱6箱に収納。

６.角２封筒に入れたふろく点数を各封筒に明記。基本は1点1点だが、ポストカード3点セット、シール５枚セットなど「セットもの」とわかるものは１セット1点とした。未開封セット（４～5点入り）は、未開封セット＝1点としてカウントした（少女まんが館TAKI1735行きも同じ）。

8.各封筒に書かれた点数を集計、封筒に入らない大物商品（ポスターやカレンダー、レコードアルバムなど）や全員プレゼント、販促品（しおりやミニパンフレットなど）も、すべてカウントした。原画は１枚1点としてカウントした。

9.雑誌ふろくのメタデータ化試作をして、未開封セット＝１点とするとメタデータ化しにくいことが判明。今期末（2月末）までに、本館保存の未開封セットを開封して点数の再確認をする予定。

10.メディア芸術データベース（以下、 MADB）のデータを基にした雑誌リストに、二人ひと組でデータ入力。ひとりが雑誌本体の記載を読み上げ、一人がパソコン入力した。

●成果

・ふろくグッズ類総点数　7,841点

（総点数内訳）

雑誌ふろくなど……3,188点

販促品……336点

商品……899点

原画……2,529点
不明……889点

（収蔵品／未カウント）
・雑誌一部切り抜き作品……段ボール箱など15個

・MADB のデータを基に蔵書リストを作成。昨年度作成した2,226冊に加えて、2,228冊の蔵書検索(総数4,454冊)が可能になった（週刊マーガレット／週刊マーガレット増刊／デラックスマーガレット／デラックスマーガレット増刊／ザ・マーガレット／ザ・マーガレット増刊／プチマーガレット、別冊セブンティーン／月刊セブンティーン／月刊セブンティーン大増刊／月刊セブンティーンオリジナル、週刊少女フレンド／少女フレンド／月刊少女フレンド／少女フレンド増刊／週刊少女フレンド特別編集、少女の友／少女倶楽部（クラブ）／少女倶楽部（クラブ）増刊／少女画報／少女（時事新報社）／令女界）。MADBにないデータは206冊分あった。

・昨年夏、蔵書データベースをCSVデータとしてダウンロード可能にした。

・冊子体の蔵書総数は昨年度より3,631冊増えて、44,064冊となった。

●公開方法
・少女まんが館蔵書データベース検索 https://www.nerimadors.or.jp/~jomakan/data/
（令和7年＊月＊日よりリニューアル公開）
・例年通り、4～10 月までの毎土曜日午後、一般公開

（残された課題）
今後は、他施設で実施していないふろくグッズ類のメタデータ化の具体的合理的方法を模索し、実際にメタデータ化を進めたい。また、雑誌掲載の切り抜き作品が段ボール箱など 15 個分、未着手として残った。1970～80 年代に読者が雑誌を切り抜いてでも残したい、と大切にしていた作品ファイル類で、当時の人気・思い入れ作品のバロメータになりうる貴重な資料だと思われる。点数の数え方（前後編、連載など）のルール策定、作品リストの可能性を模索したい。なにより、大半の冊子体（雑誌やコミックス等）のメタデータ化も未着手。本館蔵書をより見やすくわかりやすく並べることも、今後の課題である。

（文化的・社会的・経済的な意義）
・少女マンガファンはもちろん、女性問題やジェンダー研究者にとっても、貴重な一次資料を手軽に検索し、閲覧できる場にさらに近づいた。
・ふろくグッズ類の総点数調査により日本のオリジナル文化といわれる「少女まんが世界」の文

化的資産をより肉付けできた。
・日本全国、海外からも老若男女が来館しやすくなり、タクシー利用、周辺地域の飲食店や観光施設への経済的波及がより大きく見込まれる。